

形成的評価における教師コメントの効果の研究

ーOPPシートを活用した小学校社会科の単元理解の変容を通してー

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 初等教科教育分野 藤本裕貴

1. 問題の所在

評価について私たち教師は、どのようなイメージをもっているだろうか。西岡ほか(2022)では、「日常場面での『評価』は、成績づけを意味する言葉として捉えられがちである」(p. ii)と指摘している。筆者自身も評価＝成績づけという意識が強く、評価の大部分は学習の到達点を把握するための総括的評価になっていた。特に小学校社会科においては、業者テスト中心の成績づけ(総括的評価)を重視することが多かった。加えて、授業の中で児童の学習理解を見取ることの難しさを感じていた。また、小学校5年生を対象にしたアンケートから、社会科の授業理解度が、他教科に比べて1～10%低いという調査もある⁽¹⁾。

そもそも評価の目的について田中(2008)は、「子どもたちをネブミして、序列・選別することではなく、教育実践それ自体に反省を加えて、修正・改善することである」(p.83)と述べている。このことから評価は、児童の言動や成果物に対する教師の一方的な形で終わることなく、児童の実態を見取り、適切に働きかける必要性が見えてくる。つまり、形成的評価の重要性である。

また、中央教育審議会(2019)の「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、学習評価の基本的な方向性について、①児童生徒の学習改善につながるものとする。②教師の指導改善につながるものとする。③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと、と示している。さらに国立教育政策研究所(2020)の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料ー小学校

社会ー」では、学習評価の2つの側面として、指導に生かす評価と記録に残す評価を示している。本研究で取り上げる形成的評価は、指導に生かす評価であると捉えて論を進めたい。さらに、児童の学習改善と教師の指導改善の内、児童の学習改善を主に狙ったものであることを合わせて確認しておく。

以上のことから、形成的評価を活用して小学校社会科における学習理解を促進する必要があると考えた。そのため本研究では、小学校社会科の単元理解を対象に、児童への働きかけの1つである教師コメントの効果を明らかにすべく、実践研究を実施していく。

2. 先行研究

先述したように、形成的評価を活用して教師コメントの効果を明らかにしていくという研究内容から、以下の3種類の先行研究について見ていく。

まず、形成的評価について見ていく。梶田(2016)は、「(前略)教師の側でもっているねがいやねらいの実現を目指す活動の中で、子どもがほんとうに変わっていきつつあるのかどうかを見てとり、それを手がかりとして、ねがいやねらいがよりいっそううまく実現していくための手だてを講じていく、というのが形成的評価である」(pp.17-18)と述べている。また、形成的評価について既出の西岡ほか(2022)は、「(前略)意図した通りの教育効果がもたらされているかが確認され、もたらされていない場合には即時に授業計画の変更や回復指導(補充学習など)の実施といった軌道修正が図られる」(p.6)と述べている。

次に、OPP シートについて触れる。本研究では、児童の学習理解を見取り、適切な教師コメントを行う手立てとして、2002年に堀哲夫が開発したOPPA⁽²⁾の目的を達成するために使用するOPPシートを活用する。堀(2019)でOPPシートとは、「One Page Portfolioの略。OPPAの目的を達成するために、一枚の用紙を用いて教師が作成するもの。『単元名タイトル』、『学習前・後の本質的な問い』、『学習履歴』、『学習後の自己評価』の四要素から構成」(p.264)と定義されている。

最後に、教師コメントについて見ていく。二宮(2013)は、オーストラリアの心理学者であるサドラーの主張を以下のように述べている。「フィードバックが形成的な機能を果たすためには、学習者の現在の到達レベルが示されるだけでなく、それが目標とどのくらい異なっているのかが質的、あるいは量的に示され、さらにその差異を埋めるために、どのような行動が必要なのかが示されなければならない」(p.102)と。このことから、教師のねらいを達成させるためには、児童に何が足りないのか気づかせ、そこに迫る具体的な教師コメントを行う重要性が示唆されている。

また、既出の堀(2019)では、具体的な教師コメントとして、「具体的に言うと何ですか」「違いは何ですか」「〇〇についてはどうですか」など短い教師コメントが例示されている。その理由として、長くなると教師が回答を与えかねないことが指摘されている。

3. 研究の意義

本研究の意義として、以下の3点が考えられる。1つ目は、教師コメントにより児童の学習理解がどのように変容していくか検証できることである。堀(2018)では、教師の働きかけにより学習者の既有の知識や考えがどのように変化していくか、という研究はまだまだ遅れている、と述べられている。また、学習者の学習過程や認知過程に着目し実践に使えるまで洗練されている教育評価は、きわめて少ないと指摘されている。そのため、教師

コメントでのやり取りによって児童の学習理解がどのように変容していくか検証することは、有意義であると考ええる。

2つ目は、個別に適切な教師コメントを行うことで各時間や単元全体の学習理解に効果があるか検証できる点である。先述した授業中の個別の見取りが難しいという課題は、OPPシートの学習履歴を見取ることによって改善されることが期待される。加えて、教師コメントで個別に働きかけることによって、各時間の学習理解を促すことが期待される。また、教師コメントのやり取りを繰り返すことで各時間の学習理解が深まり、それが単元全体の学習理解にもつながることも期待される。

3つ目は、どのような教師コメントが学習理解に効果的か検証できることである。各時間や単元全体の学習理解に効果的な教師コメントの要素が明らかになることが期待される。

本研究を通して、教師コメントは児童の学習理解を促すために効果的であるか。また、効果的であるならば、それはどのような教師コメントかが示唆されることで、児童の学習理解を促す手がかりの1つになることが考えられる。

4. 研究目的とリサーチクエスチョン

本研究の目的は、OPPシートに教師コメントを行うことで、各時間や単元全体の学習理解に効果があるか、また、効果がある場合それはどのような教師コメントかを検証することである。

検証項目は、①教師コメントと各時間の学習理解の関係、②教師コメントと単元全体の学習理解の関係、③各時間の学習理解に効果的な教師コメントの要素、④単元全体の学習理解に効果的な教師コメントの要素である。

そこで、以下の4つのリサーチクエスチョンを立てた。①適切な教師コメントは、各時間の学習理解に効果的か。②適切な教師コメントは、単元全体の学習理解に効果的か。③どのような教師コメントが、各時間の学習理解に効果的か。④どのような教師コメントが、

単元全体の学習理解に効果的か、である。

5. 実践の状況

調査対象は、山梨県内公立小学校の第6学年1学級22人である。調査時期は、10月中旬から11月上旬。単元名は、「明治の新しい国づくり」(『小学社会6』教育出版)で全7時間とテスト1時間の計8時間で実施した。

調査対象学級は、学習意欲が高い児童が多く、授業中の積極的な発言やつぶやきも多い。また、ペアやグループでの意見交換や討議なども活発に行うことができる。社会科は、教務主任が担当しているが、他の授業と同様、積極的な発言が多く、既習事項を意識した発言もある。

実際の授業では、教科書の流れに沿って学習を進めた。図1は、授業者である筆者が構想した単元の概念図である。表1は各時間のねらいとなっている。紙幅の都合上、授業内容の詳細は省略するが、図2及び図3の教師用OPPシートにどのような記述をねらっているのかを示したので確認されたい。

概念図

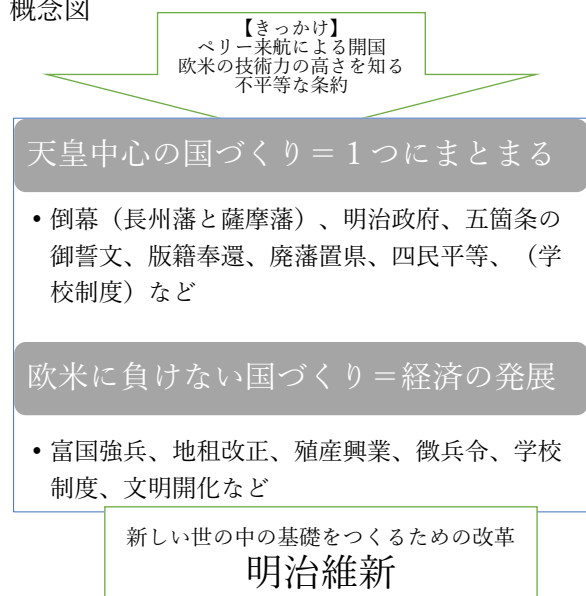


図1 単元の概念図

表1 時数と各時間のねらい

時数	ねらい
1	江戸と明治の絵を比較して人々の様子の変化に気づき、変化の理由について既習内容をもとに仮説を立てることができる。 【単元の学習課題】（本質的な問い） 「明治の国づくりは、何をめざし、どのように進められたか考えよう。」
2	黒船来航の影響について、理解することができる。
3	開国によって人々の暮らしや幕府の政治は、どのように変わったか理解することができる。
4	なぜ明治政府は、天皇中心の強い国づくりをめざしたかを理解できる。
5	明治政府のめざす国づくりを理解し、富国強兵政策について説明することができる。
6	明治時代の人々の暮らしや考え方の変化を理解することができる。
7	明治の新しい国づくりは、何をめざし、どのように進められたかを説明することができる。
8	業者テストを実施して、学習理解について見取る。

6. 調査・分析方法

調査は、以下の①から⑦の手順で進めた。
①授業の終末時に児童が、学習履歴を記述する。
②授業後に教師が、学習履歴を見取る。
③教師が、適切な教師コメントを行う。
④次時の導入時に児童が、教師コメントに対して追記する。
①から④について、第2時の終末から第7時の導入までの全5回繰り返す。
⑤第7時に児童は、本質的な問いと振り返りを記述する。
⑥教師は本質的な問いと振り返りの記述を見取る。
⑦業者テスト（日本標準 2 日本の歴史 8 明治の新しい国づくり 知識・技能100点満点、思考・判断・表現50点満点）を実施及び採点を行い、各時間や単元全体の学習理解との関係について考察する。
なお、本研究では、紙媒体のOPPシートを使用した。その理由は、以下の2点である。1つ目は、児童の記述と教師コメントの対応を明確にして、児童が追記しやすいようにするためである。2つ目は、A3両面印刷にすることで、各時間の学習履歴を見渡せるようにし、単元の全体像を捉えやすくするためである。

6年組 名前	振り返り（先生のコメントについての感想、学習を通してわかったこと、このシートを使用した感想など） 先生のコメントに答えることでよりわかるようになった。先生のコメントにより、わからなかった部分が見えてきた。先生のコメントにより言葉にできなかったことが書けた。先生のコメントがあり、前の時間とのつながりがわかりやすかった。 外国の影響を受けて開国したことから江戸幕府が倒れ、明治政府ができたことがわかった。また、明治政府は天皇中心の国づくりを行い、欧米に負けない国を目指したことがわかった。 このシートは自分のわかったことが1枚にまとめられているので、自分の考えが見やすいし、学習課題に対する考えが書きやすかった。
単元名 「明治の新しい国づくり」	
単元の学習課題 明治の国づくりは、何をめざし、どのように進められたか考えよう。	
学習課題に対する予想とその理由 ○平安から鎌倉時代で天皇から武士中心の政治になったから、政治の中心になる人が変わり、今度は天皇中心の国づくりを行おうとした。 ○戦国時代、織田信長は外国との貿易を活発に行い、火縄銃をたくさん用意したように、外国の技術を積極的に取り入れた。 ○教科書の絵の比較から、蒸気機関車や洋服など外国の技術や文化を取り入れて、日本を発展させようとした。 ○街の様子が大きく変わっていることから、政治の中心となる人の考え方が大きく変化して、外国の技術を積極的に取り入れた。 ○渡来者からたくさんの技術を学んだように、技術や文化を外国に学んで、日本を発展させようとした。 ○江戸幕府がなくなり、新しい政治が行われた。	単元の学習課題に対するまとめ（授業の最後） 天皇中心で欧米の国々に負けない国づくりを目指した。ペリー来航により日本は開国し、欧米の国々との力の差に気づき、富国強兵政策をすすめ、天皇中心の新たな国づくりを行った。具体的には、廃藩置県で政府の命令が地方まで届くようにしたり、地租改正により現金で安定した収入が得られるようにしたり、欧米の文化を積極的に取り入れたり、徴兵令により西洋式の強い軍隊をつくったりしたこと。

図2 教師用 OPP シート表面（筆者作成）

①授業で一番大切だったこと ペリーが来航し技術力の差を示したことにより、日本は開国し、アメリカなどと日米和親条約や日米修好通商条約といった日本にとって不平等な条約を結んだ。 【キーワード】 開国、ペリー、不平等条約、幕府がおわるきっかけ 感想（わかったこと、疑問など） なぜアメリカは日本に来たのか疑問に思った。 →アメリカは清との貿易をするのに、その途中日本で水や燃料の補給をするために開国を迫ったから。	②授業で一番大切だったこと 開国により人々の生活は苦しくなり世直しを求めた。また、欧米との力の差に気づいた長州藩や薩摩藩を中心に幕府を倒し、260年続いた江戸幕府の政治が終わった。 【キーワード】 世直し、欧米との力の差、幕府の政治が終わる、木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通、坂本龍馬 感想（わかったこと、疑問、先生のコメントについてどう思ったかなど） 前の時間の先生のコメントから、なぜ条約を結んだのか考えるきっかけとなった。	③授業で一番大切だったこと 明治政府は、国内を1つにまとめ天皇中心の強い国づくりをすすめるため、五か条の御誓文で、政治の方針を示した。それに基づき、版籍奉還、廃藩置県、四民平等など様々な改革が進められた。 【キーワード】 1つにまとめる、天皇中心の強い国づくり、版籍奉還、廃藩置県、四民平等 感想（わかったこと、疑問、先生のコメントについてどう思ったかなど） 欧米との力の差に気づいたから新しい国づくりが必要ながわかった。
単元の学習課題 「明治の国づくりは、何をめざし、どのように進められたか考えよう。」	⑤授業で一番大切だったこと 人々に欧米の暮らしや文化、考え方が広まり生活が大きく変化した。これを文明開化という。 新しい世の中の基礎をつくる様々な改革のことを明治維新という。 【キーワード】 文明開化、福沢諭吉、明治維新 感想（わかったこと、疑問、先生のコメントについてどう思ったかなど） 先生のコメントから、地租改正や徴兵令などが富国強兵をすすめるために行われたことがわかった。	④授業で一番大切だったこと 明治政府は、地租改正や徴兵令、殖産興業などの富国強兵政策をすすめ、欧米の国々に負けない国を目指した。一方で人々の負担は増えた。 【キーワード】 欧米に負けない国づくり、富国強兵、地租改正、徴兵令、殖産興業 感想（わかったこと、疑問、先生のコメントについてどう思ったかなど） 前の時間の先生のコメントから、江戸時代と違って、天皇中心の国づくりが進められたことがわかった。
6年組 名前		

図3 教師用 OPP シート裏面（筆者作成）

学習履歴を記述する際は、その授業で最も大切だと思ったこと、及び、単元の学習課題（本質的な問い）を解決するために必要だと思うことの2つを児童に意識させた。また、事前に児童の学習履歴への記述を予想し、それに対する各時間の教師コメントの想定問答集（図4）を作成し、それを参考にしながら学習理解を促す教師コメントを行った。

第5時

～具体的な政策を問う～

【学習履歴】 明治政府は、欧米に負けない国をつくるために富国強兵の政策を進めた。
【教師コメント】（追記させたい内容） 具体的にはどんな政策がありましたか？（殖産興業、地租改正、徴兵令）
～富国強兵政策の目的を問う～
【学習履歴】 殖産興業で経済を発展させ、地租改正で国の収入を安定させ、徴兵令で西洋式の強い軍隊をつくった。これらを富国強兵の政策という。
【教師コメント】（追記させたい内容） 何のために富国強兵の政策を行いましたか？（欧米に負けない国をつくるため）
～政策からどのような国づくりを目指したかを問う～
【学習履歴】 地租改正が一番大切。国の収入が安定すれば、集めた税金でいろいろなことができるから。
【教師コメント】（追記させたい内容） 国の収入を安定させてどのような国を目指しましたか？（欧米に負けない国）
～政策からどのような国づくりを目指したかを問う②～
【学習履歴】 徴兵令で西洋式の強い軍隊をつくったり、地租改正で国の収入を安定させたりした。
【教師コメント】（追記させたい内容） 徴兵令や地租改正を行い、どのような国づくりを目指しましたか？（欧米に負けない国）
～近代国家形成の目的を問う～
【学習履歴】 明治政府は、欧米に負けない国を目指して富国強兵の政策として、殖産興業、地租改正、徴兵令を行った。
【教師コメント】（追記させたい内容） なぜ欧米に負けない国を目指したのでしょうか？（外国に攻められないように、不平等条約を改正するため）

図4 予想される学習履歴とそれに対する教師コメントの想定（一部抜粋）

7. 結果と考察

ここからは、4つのリサーチクエスチョンに沿って結果を示しつつ考察していく。

まず、リサーチクエスチョン①「適切な教師コメントは、各時間の学習理解に効果的か」について述べていく。

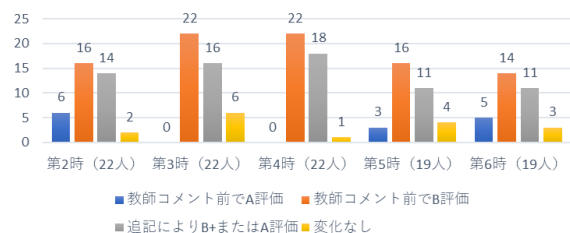


図5 学習履歴の形成的評価と教師コメントへの追記後の評価

図5は、学習履歴の形成的評価と、教師コメントへの追記内容の評価を示すグラフである。縦軸は人数を表す。青と橙は学習履歴の教師コメント前の評価を表し、灰と黄は教師コメントへの追記後の評価を表す。第2時から第4時までは各22人分、第5時と第6時は3人の欠席者がいたため、各19人分の評価結果となる。学習履歴に対する教師コメント前の評価がCの児童は、全ての時間で見られなかったため、学習履歴の教師コメント前の評価は、AまたはB評価となっている。なお、教師コメント前にA評価の児童には、メタ認知を促すコメント（例えば、「〇〇の視点でまとめられましたね」）を行っており追記を意図していないため、追記後の評価の集計から除外している。

第2時から第6時までに、教師コメントに対する追記で学習理解が深まった（追記によりB+またはA評価になった）児童の合計は、70人である。これを第2時から第6時までの教師コメント前にB評価だった児童数90人で割ると、約77.8%となる。このことから、適切な教師コメントを行いそれに追記することで、8割近い児童の学習理解が深まったことがわかる。つまり、適切な教師コメントに児童が追記することは、各時間の学習理解を深めることへ効果があると言える。よって、リサーチクエスチョン①は支持されると考える。

次に、リサーチクエスチョン②「適切な教師コメントは、単元全体の学習理解に効果的か」について述べていく。表2は、本質的な問いに対する評価と、各時間の追記で毎回学習理解が深まった児童とそうでない児童をクロス集計したものである。各時間の追記で毎回学習理解が深まっている児童は、8人である。その8人は、本質的な問いに対する評価がAとなっている。また、各時間の追記で学習理解が深まらないことがある児童の内、2人を除く12人が本質的な問いに対する評価がBとなっている。この結果から、各時間の追記で毎回学習理解が深まっている児童ほど、本質的な問いへの理解が深まっていることがわかる。

つまり、各時間の学習理解を促す適切な教師コメントは、単元全体の学習理解にも効果があると言える。

表2 本質的な問いに対する評価と学習理解の変容のクロス集計

本質的な問いの評価	A	B+	B
各時間の追記で毎回学習理解が深まっている	8人	0人	0人
各時間の追記で学習理解が深まらないことがある※①	1人 ※②	1人	12人 ※③

※①理解が深まらないとは、追記内容が教師のねらいからずれている、記述途中、記述無しを指す。

※②第5時、第6時を欠席した児童。2回分の学習履歴が書けていない。それ以前に追記途中が1回あった。

※③内2人は第5時、第6時を欠席した児童。それ以前の追記では毎回理解が深まっていた。

表2に加えて、単元全体の振り返りの記述内容の一部を示す（下線は筆者）。以下に示す3人の児童は、各時間の追記で毎回理解が深まり、本質的な問いもA評価であり、業者テストの思考・判断・表現も45点以上だった。

児童A

「先生のコメントが書かれているとそれがぎもんになってどうしてだろうと思えるし、どんどん自分のちしきがあがっていくからいいと思う。」

児童B

「コメントのやり取りで、前回やったことがふり返れるし、忘れていたことを思い出せることにやっていく内に気づいた。」

児童C

「先生のコメントでさらに学習がふかまったり、シートでかくことで今日のことがまとめってかんじがした。」

下線部分の「どんどん」、「やっていく内に」、「さらに学習がふかまった」などの記述から、教師コメントのやり取りで、各時間の学習理解が深まっていき、それが単元全体の学習理解に影響を与えていると考えることができる。以上の表2や振り返りの記述から、適切な教師コメントが単元全体の学習理解にも効果があると考えられる。よって、リサーチクエス

ション②は支持されたとする。

続いて、リサーチクエスション③「どのような教師コメントが、各時間の学習理解に効果的か」について述べていく。表3は、今回記述した全ての教師コメントの分類、その回数、及び教師のねらいに達しなかった回数とその割合を示したものである。

表3 教師コメントの分類と回数

分類	具体例	回数	教師のねらいに達しなかった回数とその割合
「何」を問う	誰中心の国づくりを目指しましたか？	43	4回 約9%
「理由」を問う	なぜ開国したのでしょうか？	24	5回 約21%
「結果」を問う	幕府はどうなりましたか？	16	4回 25%
「内容」を問う	開国後に結んだ条約は、どのような内容でしたか？	13	2回 約15%
「目的」を問う	何のために富国強兵の政策を行いましたか？	3	0回 0%
「メタ認知」を育む	幕府の視点で開国について理解できましたね！	14	—
教師コメントの書き忘れ	—	1	—
合計	—	114	15回

表3から「何」や「内容」を問う教師コメントは、教師のねらいに達しなかった割合が低く、各時間の学習理解に効果的であることがわかる。

次に、教師のねらいに達しなかった教師コメントについて考察する。同じ「何」を問うでも、例えば「政府の命令が全国に届くことで江戸時代までと何が変わりましたか？」のように説明を求めるような教師コメントは、教師のねらいに達しなかった。同様に、「理由」を問う教師コメントでは、「幕府はなぜ開国したのでしょうか？」は、ねらいに達しやすかったが、「なぜ欧米に負けない国をめざしたのでしょうか？」のように「発展的に理由」を問うとねらいに達しにくいことがわかった。さらに、「人々の暮らしや考え方はどうなりましたか？」のような「結果」を問う教師コメントについても、ねらいに達しにくい要素がある

ことがわかった。ねらいに達しにくい理由としては、追記時間2分という時間の制約を受けたこと、児童の各時間の学習理解が進んでいなかったこと、教師コメントの内容が曖昧であったことなどが考えられる。

上記を踏まえ各時間の学習理解に効果的な教師コメントの要素として、短時間でも追記できる「何」、「内容」、「理由」を問う教師コメントが挙げられる。また、疑問形の教師コメントは、先行研究でも示された「差異を埋める行動を示す」ことにつながっているため、先行研究の効果が確認されたと考えられる。逆に、追記に時間がかかる「結果」や「発展的に理由」を問う教師コメントは教師のねらいに達しにくいと言える。

最後に、リサーチクエスション④「どのような教師コメントが、単元全体の学習理解に効果的か」について述べていく。表4は、児童D（本質的な問いA評価、毎回理解が深まる追記、知識・技能90点、思考・判断・表現37点）に対して行った、第4時、第5時の学習履歴に対する教師コメントと追記、本質的な問いへの記述内容を示している。下線、波線は筆者によるものである。

表4 児童Dとのやり取りと本質的な問いへの記述

	実際の記述内容
第4時の学習履歴に対する教師コメント	<u>誰中心の国づくり</u> を目ざしましたか？
児童の追記	<u>天皇中心の国づくり</u> を目ざした。
第5時の学習履歴に対する教師コメント	これらの政策(※)は、 <u>どのような国</u> を目ざして行われましたか？
児童の追記	<u>欧米の国々に追いつき負けない国</u> を目ざした。
本質的な問いへの記述	明治は <u>・天皇中心の国づくり</u> を目ざした。 <u>・欧米の国々に追いつき、負けない国</u> を目ざした 天皇を中心とした政府がつくられた。新しい政治の方針を明治天皇が「五か条の御誓文」として発表した。西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允たちは、政治や社会の改革を次々とすすめていった。 友 殖産興業(産業 経済)・地租改正(収入安定)

※地租改正・徴兵令・殖産興業を指す。

表4から、本質的な問いの解決につながる教師コメント（下線部）を行ったことで、各時間の学習理解と本質的な問いがつながっていったのだと考えられる。そのため、本質的な問いでは、教師のねらいに近い内容の記述（波線部）ができたのではないかと推察される。同様の事例が他にも2人見られた。また、第4時と第5時は、本質的な問いの解決に直接つながる内容でもあった。そのため、それぞれの時間における教師コメントのやり取り自体が重要だったとも考えられる。

その他の要素として、「教師コメントが疑問形だから答えやすい」という児童の振り返りから、教師コメントが疑問形になっていることが挙げられる。また、「教師コメントでやり取りをすることで、答えをさがそうと思う」という振り返りから、教師コメントのやり取り自体が学習理解に効果的だったと考えられる。加えて、「OPPシートの使用により、授業の最後に本時をふり返ることができる。それが積み重なったものを見返すことができる」というような振り返りへの記述もあった。このことから、学習過程を一目で確認できるOPPシートの構成自体も、単元の学習理解を深める一因となっていたことがわかる。

8. おわりに

ここまで、形成的評価における教師コメントの効果について考察してきた。最後に、本研究で示唆されたことや課題についてまとめ、現場で活用する際の留意点を述べていきたい。

示唆されたこととして4点挙げる。1つ目は、教師コメントは各時間の学習理解を深める効果があり、それが単元全体の学習理解にもつながること。2つ目は、各時間の学習理解を深める要素として、短時間で追記できる「何」や「理由」を問う教師コメントが効果的なこと。3つ目は、単元全体の学習理解を深める要素として、「本質的な問いの解決につながる教師コメント」が効果的なこと。4つ目は、児童が学習過程を一目で把握できるOPPシートの構成自体が単元全体の学習理解を促すことに

つながっていることである。

課題としては、以下の3点が挙げられる。1つ目は、記述のずれや記述無しといった児童への働きかけである。本研究では、追記を促す2度目の教師コメントや声掛け、正答を書くという対応をとった。しかし、教師が正答を書いた児童の理解は不十分で、本質的な問いでの活用ができていなかった。2つ目は、児童が学習履歴を書いたり、追記したりする時間や、教師が教師コメントを書く時間の確保だ。本研究では、学習履歴の記述に3～5分、追記に2分の時間をとった。また、教師コメントの記述は、22人分で約30～40分を要した。多忙を極める学校現場で、どのように時間を捻出するかが課題だと考える。3つ目は、デジタル化しても同じような結果になるかだ。本研究では紙媒体を使用した。学校現場では端末が整備され、日常的に活用できる環境が整っている。そのため、デジタル化した場合どのような結果になるか検討してみる価値はあるだろう。

最後に、本研究を学校現場で活用する際の留意点を5点述べたい。1つ目は、各時間のねらいと本質的な問いとのつながりを明確にした授業計画を作成することである。2つ目は、教師コメントは、本質的な問いを念頭に置きながら記述することだ。特に、本質的な問いに迫る授業において意識する必要がある。3つ目は、教師コメントは、短くシンプルな疑問形にすることだ。これにより児童が、短時間でも追記できるようになる。4つ目は、追記にずれや記述無しがある場合は、働きかける必要があることだ。5つ目は、教師コメントを記述する時間の確保である。多忙を極める学校現場で教師コメントを記述する時間の確保も難しいため、短くシンプルな疑問形が効果的だと考える。

注

- (1) 調査とは、ベネッセ教育総合研究所「第5回学習基本調査」報告書[2015]を指す。

- (2) 堀(2019)は、OPPAを以下のように定義している。「OPPAとは、One page Portfolio Assessmentの略。教師のねらいとする授業の成果を、学習者が一枚の用紙の中に学習前・中・後の学習履歴として記録し、その全体を学習者自身に自己評価させる方法。(後略)」(p.264)

9. 引用・参考文献

- ・梶田叡一(2016),『名著復刻 形成的な評価のために』, 明治図書.
- ・国立教育政策研究所(2020),「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料—小学校社会—. https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf (最終閲覧日 2024.2.16)
- ・田中耕治(2008),『教育評価』, 岩波書店.
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2019), 児童生徒の学習評価の在り方について(報告). https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_1_1_1.pdf (最終閲覧日 2024.2.16)
- ・西岡加名恵他編著(2022),『新しい教育評価入門—人を育てる評価のために—[増補版]』, 有斐閣.
- ・二宮衆一(2013),「イギリスのARGによる『学習のための評価』論の考察」,『教育方法学研究』第38巻, pp.97-107.
- ・ベネッセ教育総合研究所(2015),「第5回学習基本調査」報告書[2015], pp.57-58. https://berd.benesse.jp/up_images/research/1_chp1.pdf (最終閲覧日 2024.2.16)
- ・堀哲夫(2018),「資質・能力を育てる教育評価に関する研究—OPPA論を中心にして—」,『山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』巻23, pp.305-317.
- ・堀哲夫(2019),『新訂 一枚ポートフォリオ評価 OPPA—一枚の用紙の可能性—』, 東洋館出版.